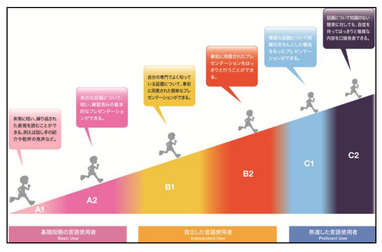


Can-doを到達目標とした授業設計の試案

押尾　和美　　篠原　亜紀

（独）国際交流基金日本語国際センター

発表要旨

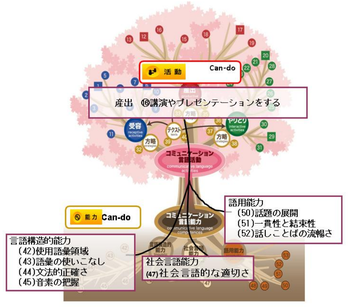
言語を学ぶ主な目的は、その言語を使ってコミュニケーションができるようになることであるが、そのためには、言語構造的能力や社会言語能力などを身につけることも必要である。本発表では、「～ができる（Can-do）」という形式で表現されたコミュニケーション言語活動を到達目標に設定した授業をデザインするとき、どのような手順を踏めばよいか、具体的な流れを提示する。

背景知識

●JFスタンダードの木とは

JFスタンダードの木とは、言語能力と言語活動の関係を整理したもの。

言語によるコミュニケーションのためには基礎となる**言語能力**が必要。この言語能力を使って、さまざまな**言語活動**を行うことができる。



●Backward Designとは

Wiggins＆McTighe(2005)が提案しているカリキュラム設計論。**「目標」「評価」「授業の進め方」を三位一体のものとして考える**点が大きな特徴であり、**教育によってもたらされる結果から遡って**具体的な教育内容を設計すること、具体的な**授業設計の前に評価方法を構想**することを唱えていることから「バックワードデザイン」と呼ばれている。バックワードデザインでは、評価の対象に**パフォーマンス課題**を組み込むことも主張している。

（西岡（2008）pp.13-14を要約）

①到達目標を明確にする

パフォーマンス課題

自分の国の名物料理について、その料理を知らないクラスメイトにもわかるように、パワーポイントで内容を補足しながら、ある程度の長さの準備したプレゼンテーションができる。説明のあと、クラスメイトからの質問に答えることができる。

文脈化

目標レベル　B1	
パフォーマンス課題作成の参考にしたCEFR活動Can-do	（受容　読むこと全般）自分の専門分野や興味に関連のある主題について、簡潔な事実関係のテクストを読んで、充分に理解できる。
	（話すこと全般）　自分の関心のあるさまざまな話題のうちのどれかについて、ほどほどの流暢さで、ある程度の長さの、簡単な記述やプレゼンテーションができる。その際、事柄の提示は直線的である。
	（産出　講演やプレゼンテーションをする）自分の専門でよく知っている話題について、事前に用意された簡単なプレゼンテーションができる。ほとんどの場合、聴衆が難なく話についていける程度に、はっきりとしたプレゼンテーションをすることができ、また要点をそこそこ正確に述べることができる。
	（産出　作文を書く）自分の関心事の身近な話題について、複雑でないが、詳しく記述することができる。
B1レベルの能力Can-do	
語彙の使いこなし	複雑な考えや、非日常的な話題や状況に関して何かを述べようとすると、大きな誤りをすることがあるが、初歩的な語彙は使いこなせる。
文法的な正確さ	馴染みのある状況では、割合正確にコミュニケーションを行うことができる。多くの場合高いレベルでの駆使能力があるが、母語の影響が明らかである。誤りも見られるが、本人が述べようとしていることは明らかに分かる
音素の把握	時には外国語訛りが目立ったり、発音を間違えることもあるが、大体においてよく理解できるくらい明瞭である。
叙述の正確さ	直接関わりのあることについては、簡単かつ分かりやすい形で情報を伝えることができ、自分が最も大切だと思う点を、聞き手に理解させることができる。細かい情報を、信頼してもらえるような正確な表現で伝えることができる。
方略	自分が使った言語形式が正しいかどうか確認することができる

この課題達成に必要な言語能力		
言語構造的能力	語彙や表現	調理方法
		味や食感を生き生きと描写する表現
	文字	初歩的な漢字を適切に含めて書く
	文法	接続表現
		連体修飾
		敬語
		受身表現
		恩恵の補助動詞
		アスペクト補助動詞
		モダリティ表現
		連用中止法
方略的能力	パワーポイントを効果的に使える	
	知っている語や表現を使って、予備知識がない聞き手に情報を正確に伝えられる。	

②評価方法を構想する

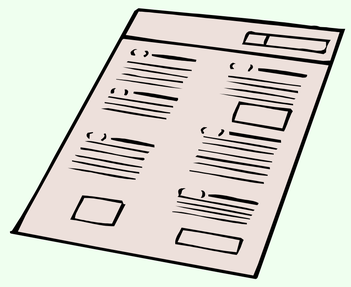
パフォーマンス評価シート

自己評価シート

自分の国の名物料理について、パワーポイントで内容の補足しながら、その料理を知らないクラスメイトにもわかるように、ある程度の長さの準備したプレゼンテーションができる。説明のあと、クラスメイトからの質問に答えることができる。

		目標以上によくできた	目標が達成できた	うまくできないところがあった	できなかった
活動	自分の国の名物料理について、パワーポイントで内容の補足しながら、その料理を知らないクラスメイトにもわかるように、ある程度の長さの準備したプレゼンテーションができた。	4	3	2	1
	説明のあと、クラスメイトからの質問に答えることができた。	4	3	2	1
語彙の使いこなし	複雑な内容になると大きな誤りをすることがあるが、初歩的な語彙は使いこなすことはできた。	4	3	2	1
文法的な正確さ	クラスメイトを前に、割合正確にコミュニケーションを行うことができた。誤りも見られるが、本人が述べようとしていることは伝えることができた。	4	3	2	1
発音	時には外国語訛りが目立ったり、発音を間違えることもあったが、大体においてよく理解できるくらいはっきりしていた。	4	3	2	1
叙述の正確さ	よく知っていることについては、簡単で分かりやすい形で情報を伝え、自分が最も大切だと思う点を、聞き手に理解させることができた。細かい情報を、信頼してもらえるような正確な表現で伝えることができた。	4	3	2	1
発話をモニターする	自分が使った言語形式が正しいかどうか確認しながらプレゼンテーションをすることができた。	4	3	2	1
方略	PPTを効果的に使うことができた。	4	3	2	1

筆記テスト



③授業で扱う内容と手順を考える

期待される発話例の検討

私は東北地方の出身なので
名物料理を紹介したいと思い
ドをご覧ください。この料理の
シェン」と言います。漢字では、
の三」「新鮮の鮮」と書きます。
「地面から取れた3つの新鮮な
なるでしょうか。ディサンシェン
庭料理で、ジャガイモ、なす、
材料を一口大に切って素揚げ
スのソースをからめただけの
が、ジャガイモのホクホク、茄
ンのシャキシャキがあいまって
けで、ご飯が何杯も進みます。
ですので、是非作ってみていた
す。・・・・・・・・
「ディサンシェン」は、今では
れますが、流通経路が整って
地方で野菜はとても貴重でした
がきかないので、この料理は
に食べるごちそうだったのかも
きどき、お袋の味がなつかしく
で作って食べています。高カロ
いのですが、この料理を食べる
とを思い出しています。・・・

扱う語彙や文法の検討

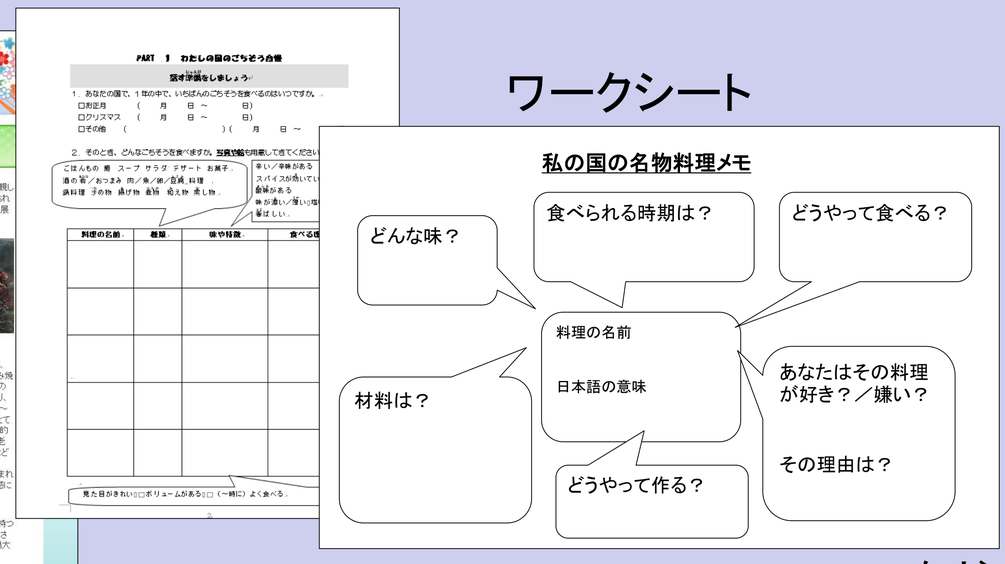
（1）詳しく説明する
- 「　　」という名前の料
- 「　　」は、「　　」とい
- 野菜がたくさん入っているんで
- たれ／ソースがかかっている
（2）調理法
- 一口大に切って、素上げします
- じゃがいもと茄子を揚げた後、炒めます
- ガラスープで味をつけます
- 片栗粉でとろみをつけたらでき
（3）味や食感
- こってり
- しゃきしゃき
- ほくほくの
（4）特長
- 高カロリーですが、ご飯がすす
- ごはんが何杯もすすみます
（5）接続表現
　V1て、V・・・　S1が、・・・　S1

教材の準備

読解文

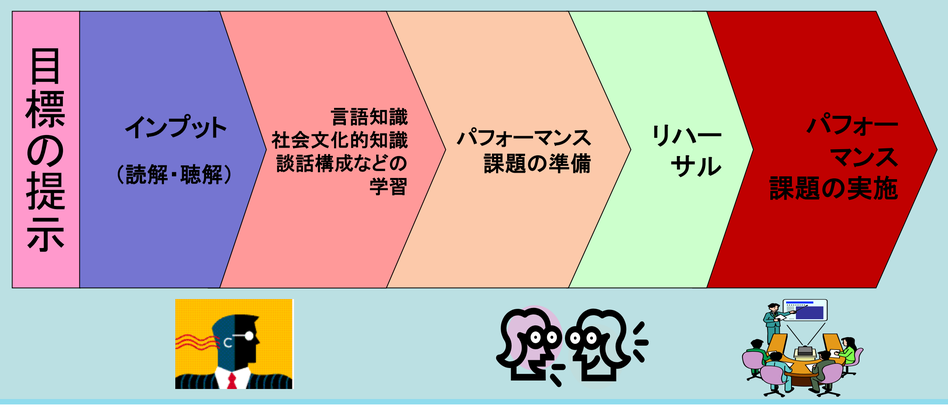
http://web-japan.org/kidsweb/ja/local/okonomiyaki-takoyaki/index.html

ワークシート

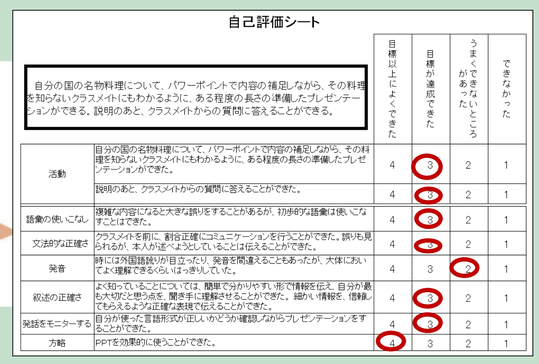


など…

④授業を実施する



⑤評価する



自己評価シート

自分の国の名物料理について、パワーポイントで内容の補足しながら、その料理を知らないクラスメイトにもわかるように、ある程度の長さの準備したプレゼンテーションができる。説明のあと、クラスメイトからの質問に答えることができる。

		目標以上によくできた	目標が達成できた	うまくできないところがあった	できなかった
活動	自分の国の名物料理について、パワーポイントで内容の補足しながら、その料理を知らないクラスメイトにもわかるように、ある程度の長さの準備したプレゼンテーションができた。	4	3	2	1
	説明のあと、クラスメイトからの質問に答えることができた。	4	3	2	1
語彙の使いこなし	複雑な内容になると大きな誤りをすることがあるが、初歩的な語彙は使いこなすことはできた。	4	3	2	1
文法的な正確さ	クラスメイトを前に、割合正確にコミュニケーションを行うことができた。誤りも見られるが、本人が述べようとしていることは伝えることができた。	4	3	2	1
発音	時には外国語訛りが目立ったり、発音を間違えることもあったが、大体においてよく理解できるくらいはっきりしていた。	4	3	2	1
叙述の正確さ	よく知っていることについては、簡単で分かりやすい形で情報を伝え、自分が最も大切だと思う点を、聞き手に理解させることができた。細かい情報を、信頼してもらえるような正確な表現で伝えることができた。	4	3	2	1
発話をモニターする	自分が使った言語形式が正しいかどうか確認しながらプレゼンテーションをすることができた。	4	3	2	1
方略	PPTを効果的に使うことができた。	4	3	2	1

今後の課題

①授業の検証とレベル別授業例の提示

授業を実施し、検証・改善を加えること。
レベル別に授業例を提示すること。

②Language contentの提示

日本語の文脈で、レベル判断の手がかりとなる言語項目（Language content)を示すこと。

主な参考文献

西岡加名恵（2008）『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』明治図書出版

British Council/EAQUALS（2010）*A Core Inventory for General English.* British Council
http://clients.squareeye.net/uploads/eaquals2011/documents/EAQUALS_British_Council_Core_Curriculum_April2011.pdf
（2012/08/10参照）

Wiggins & McTighe（2000）*Understanding by Design Study Guide*, ASCD

_____ (2004) *Understanding by Design: Professional Development Workbook*, ASCD

_____ (2005) *Understanding by Design: Expanded Second Edition*, Prentice Hall

_____ (2011) *The Understanding by Design Guide to Creating High-Quality Units*, ASCD